

令和4年1月28日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 令和4年1月28日(金曜日)

午前10時40分から正午まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席者

教育長 金澤 俊道 委 員 鷺尾 達雄 委 員 大久保 真紀
委 員 荒木 正 委 員 廣川 佳予子

4 職務のため出席した者

教育部長	安達 敏幸	子ども未来部長	水島 幸枝
教育総務課長	水島 正幸	教育施設課長	吉田 朗
学務課長	青木 佐土子	学校教育課長	中山 玄
学校教育課主幹兼管理指導主事	涌井 良平	学校教育課主幹兼管理指導主事	小畑 活
学校教育課主幹兼管理指導主事	神林 俊之	中央図書館長	佐藤 陽子
科学博物館長	小熊 博史	子ども・子育て課長	田中 剛
保育課長	恩田 立也	学校教育課副主幹兼指導主事	大畑 勝義

5 事務のため出席した者

教育総務課庶務係長 内藤 貴幸

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第1号	専決処理について（補正予算の要求について）
3	第2号	補正予算の要求について
4	第3号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について

7 会議の経過

（金澤教育長） これより教育委員会1月定例会を開会します。

◇日程第1 会議録署名委員について

（金澤教育長） 日程第1 会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第19条第2項の規定により、鷲尾委員及び廣川委員を指名します。

◇日程第2 議案第1号 専決処理について（補正予算の要求について）

（金澤教育長） 日程第2 議案第1号 専決処理について を議題とします。事務局からの説明をお願いします。

（水島教育総務課長） 補正予算の要求については、本来定例会での議決を必要としますが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた子育て世帯に対し、迅速なケアを行うため、長岡市教育委員会教育長に対する事務の委任等に関する規則第4条第2項第1号の規定に基づき、12月20日付けで教育長による専決を行いました。このたび、その内容を報告し、承認を求めるものです。具体的な内容は、子ども・子育て課長が説明します。

（田中子ども・子育て課長） 本件は12月の本会議最終日に追加で提案し、承認を得ているものです。歳出の19億5,748万円については、国の補正予算による経済対策とし

て、新型コロナウイルスの影響が長期化する中、その影響により苦しんでいる子育て世帯を支援する観点から、高校生までの子どもがいる世帯に対し、1人につき12月議会冒頭議決の5万円と合わせて、現金10万円を一括支給するための経費を要求したものです。対象児童は約3万9,000人で、うち約8割に当たる児童手当支給世帯については、12月21日に支給しています。今月末から子どもが高校生のみの子育て世帯や公務員世帯に順次支給を行います。歳入19億5,748万円は、歳出で説明しました特別給付金に対する国からの補助金です。

(金澤教育長) 急を要する事案であったために専決しました。質疑・意見はありますか。

(金澤教育長) これより採決に移ります。本件は、原案のとおり決定することに異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり決定しました。

◇日程第3 議案第2号 補正予算の要求について

(金澤教育長) 日程第3 議案第2号 補正予算の要求について を議題とします。事務局から説明をお願いします。

(田中子ども・子育て課長) 歳出707万3千円は、昨年度閣議決定されたコロナ克服新時代開拓のための経済対策において、看護、介護、保育、幼児教育等、新型コロナウイルス感染症への対応と少子高齢化への対応が重なる最前線において働くエッセンシャルワーカーの収入を引き上げることが決まり、国の補正予算に関わり、具体的に放課後児童厚生員や双葉寮など児童養護施設で働く社会的養護従事者の収入を引き上げるような補助金が創設されました。本市においても、この補助金を活用し、児童館・児童クラブ、双葉寮、柿が丘学園等の専門職員の賃金を改善するものです。令和4年2月からの実施予定であり、月額3%程度の賃金改正を行う予定です。また、歳入の553万6千円については、児童クラブ及び双葉寮の賃金改正に関する国からの補助金を受けるものです。

(恩田保育課長) 子ども・子育て課の説明と同様に、保育士、幼稚園教諭等を対象に、賃上げ効果が継続される取組を行うため、歳出については、私立保育園等に対する補助金 3,150 万円を計上しました。歳入については、これに対する国からの特例交付金であり、私立、公立ともに計上しています。なお、公立の保育士、幼稚園教諭に対する賃上げについては、既決予算で対応するため、補正予算に計上していません。

(金澤教育長) 質疑・意見はありますか。

(金澤教育長) これより採決に移ります。本件は、原案のとおり決定することに異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり決定しました。

◇日程第 4 議案第 3 号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について

(金澤教育長) 日程第 4 議案第 3 号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について を議題とします。

(金澤教育長) 定例会前の表彰ヒアリングを踏まえ、各表彰候補者について、被表彰者として適しているか否かを決定します。初めに、条項第 6 号の大崎嘉成さんについては、被表彰者として決定したいと思います。いかがでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 次に、同じく条項第 6 号の反り目旺太さんについては、いかがでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 続いて、同じく条項第 6 号の早川結生さんについては、いかがでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 続いて、同じく条項第 6 号の石沢遥斗さんについては、いかがでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 続いて、同じく条項第6号の石沢海斗さんについては、いかがでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 続いて、同じく条項第6号の関崎至流さんについては、いかがでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 最後に、同じく条項第6号の橋詰海斗さんについては、いかがでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 全員「適」と決定しました。以上をもって、本日の議案の審議については終了しました。

(金澤教育長) 次に、協議報告事項に移ります。まず、市議会12月定例会の質問事項について、特筆すべき内容を両部長から説明をお願いします。

(水島子ども未来部長) 一般質問で池田明弘議員から子宮頸がんワクチン接種の今後の対応について質問がありました。子宮頸がんワクチン接種は、一時的に積極的な接種勧奨を控えていましたが、令和4年4月から改めて再開するという国の方針が発表されました。これに対する市の認識と今後の取組についての質問です。市としては、当然のことながら、方針に基づいて再開します。その際は、対象者にしっかりと個別にお知らせし、御案内しようと考えています。合わせて、池田議員からは、間が空いているので、当事者や保護者にしっかりと説明してほしいということで、市としても、しっかりと説明し、場合によっては医師会等とその方法について協議したいとお答えしました。

(安達教育部長) 次に文教福祉委員会の報告です。池田委員から新型コロナウイルス感染症への市全体の対応策を質問された中で、12月議会当時、才津小学校でクラスターが発生していたことから、資料のとおり、感染状況を報告しました。

(水島子ども未来部長) 続いて、加藤尚登委員から、病児保育、一時保育、ファミリー・サポート・センターの利用状況や課題について質問がありました。特筆すべ

きこととしては、インターネット上での空き情報の提供について、病児保育等利用時に、現在、保護者は電話して空きがない場合に、次のところに電話するという状況であるため、これをインターネット上で確認できないかというものでした。これについては、既に関係者と協議しているところであり、改善に向けて検討中であることをお答えしました。また、ファミリー・サポート・センターについては、利用したい方が多いなか、例えば転入者などに対して、しっかり情報周知されているかという質問でした。現在は、転入した際に「子育てガイド」をお渡ししているところですが、ファミリー・サポート・センターは良い制度のため、きちんと周知していきたいとお答えしました。

(安達教育部長) 加藤委員からは、不登校児童・生徒についても質問がありました。近年の状況について、具体的な数値を挙げながら増加傾向にあることを報告し、その要因については、「無気力・不安」の割合が一番高く、さらに様々な要因が混在しているとの認識をお答えしました。そして、不登校の児童・生徒に対する支援の取組の現状については、フレンドリールーム等の適応指導教室、子ども・青少年相談センター、また学校では校内適応指導教室での学習支援や相談、家庭訪問等をスクールカウンセラーや医療機関などの関係機関と連携して、個々の状況に応じ、しっかりと対応していることをお答えしました。最後に、今後の対応方針については、どの子どもでも起こり得る状況であるため、本人が自己を見つめ、家族が現状を受け入れることで解決に向かっている事例があり、このことを踏まえ、本人の自己決定や保護者の本人理解を促す支援を充実させていきたい旨をお答えしました。

(安達教育部長) 次に長谷川委員の質問ですが、教育環境の整備のために小規模校の統廃合を進めてほしいという背景があったなかで質問されたものです。長谷川委員は、小学校の保護者との意見交換会実施について承知されており、その状況について質問されました。すでに川東の学校5校に対しアンケートや懇談会を実施しており、今後は川西の4校についても開催します。保護者の意見を踏まえた今後の取組については、統廃合に対して肯定的な意見の多い学校がある一方で、現状維持を望む意見が一定数ある学校のほか、保護者のみで意見交換したいという学校もあるなど様々でした。統廃合に肯定的な意見が多かった学校においては、合意形成が図られるように進めていくこととし、他の学校についても、情報提供と意見交換を継

続すると回答しました。さらに、委員からは該当校だけでなく、中心市街地など様々な所で児童生徒の減少が見込まれるため、その対応について質問がありました。これに対し、先進地の事例等を収集しながら研究を進めていくことをお答えしました。

(安達教育部長) 諸橋委員からは、就学援助制度において、法律に定めがあるものから長岡市が支給していないもの、支給が少ないものについて質問がありました。支給費目と支給額の定め方、令和2年度の支給総額についてですが、長岡市は国が定める補助対象費目や予算単価を参照しながら決めており、支給費目に応じて定額や実費で支給していること、また令和2年度の決算額をお答えしました。長岡市の場合、クラブ活動費は支給していませんが、それを追加してはどうかという質問に対して、種目や学校間による保護者負担の差が大きく、適正額を定めることが難しいことから、県内でも支給しているところが少ないということで、引き続き検討すると回答しました。また、生徒会・PTA会費については、長岡市は支給額が少ないのではないかと質問があり、他市の支給状況等を情報収集しながら、これについても検討していきたいとお答えしました。卒業アルバムやオンライン通信費についても同様に回答しました。就学援助費の推移については、年々減少しており、これに対する認識や現状の質問がありましたので、令和2年度、令和3年度の援助率をお答えしました。また、長岡市については、家計急変世帯について対象に加えるなど対応してきたことをお答えしました。最近減少しているのは、経済状況の変化によるものであると認識しており、国全体がそうであるように、同様の認識を示したものであります。

(水島子ども未来部長) 桑原望委員からは6月から継続して質問いただいている東川口保育園について質問がありました。教育委員会が保護者アンケートを行ったこと及び12月に保護者説明会を予定していることをお伝えしたうえで、保護者に対する丁寧な対応に対しては一定の評価をいただきました。また、今後の進め方については、ある程度保護者、地域に御理解いただいたところです。民営化については、募集して応募があれば民営化になりますが、応募がない場合には、川口のみならず、他の地域も同様ですが、公設公営となる予定であると説明しました。再公募の条件についても質問がありましたが、手続き中及び協議中であることをお答えしました。

(安達教育部長) 桑原委員のもう1つの質問ですが、部活動の適正化ということで、部活で朝練習を行っている学校について、生徒の負担になっているのではないかとこの質問がありました。部活動は、各学校の活動方針や運営計画に基づいて行っており、朝練習はそれなりの意義はありますが、場合によっては生徒と顧問で十分な共通認識を持たないままに、慣例的に実施されている状況も見受けられることから、朝練習を削減してはどうかという質問でした。これに対して、生徒の思いや意欲を顧問が受け留め、有意義な活動が実施されている場合もあるので、朝練習をなくす、あるいは減らすなど、一律の方針は示さないこととし、生徒や顧問の思いや願い、負担感や多忙感を含めて実施期間や内容を再検討し、改善を図るよう指導していくとお答えしました。

(水島子ども未来部長) 関委員からは、東川口保育園の移転についての質問でした。関委員は、地域の希望でもあるため、早く移転を進めてほしいというお考えがあり、公設公営の決断について、今すぐ市でしっかりやる、公設でやると言うてはどうかという御意見でした。この質問には市長が答弁し、教育委員会としては、しっかりと公募して、応募がなかった場合に公設というプロセスを踏みたいと考えており、市長としても教育委員会の考えているプロセスを理解しているところなので、委員からも御理解をいただきたいと締め言葉がありました。

(安達教育部長) 神林副委員長の質問は、父兄や地域から学校のことについて意見を聞いたときに課題として挙げられたものです。まず、特別教室や体育館のWi-Fi環境の整備についての質問です。普通教室においては、令和2年度に全ての教室にWi-Fi環境の整備を行い、令和3年度には、よりスムーズに接続できるように大容量のネットワークに改善しました。このことを踏まえ、様々な授業で意見交換に活用していることや体育でチームプレーを考える学習活動、理科における実験の記録などで活用されていることをお答えしました。次に、特別教室や体育館における整備状況と今後の見通しについて、整備は予算的に厳しいですが、昨年度末から既設の回線とモバイルルーター端末をアクセスポイントとして活用することで、Wi-Fi環境を確保していること、今後特別教室での用途や使用頻度を考慮して、優先順位を見極めながら必要な環境整備を行っていくことをお答えしました。また、Wi-Fi環境やタブレットを活用した今後の教育活動の進め方については、授業において有

効活用を図るために、今後も教員への研修や有効な活用事例の情報提供を行っていくこと、今進めているプラットフォームをしっかりと作り上げていくことにより、より有効に活用できるようにしていきたいこととお答えしました。次に、特別教室の冷房設備の整備について質問がありました。普通教室は、国の交付金制度を活用し整備してきましたが、特別教室については、使用頻度の高い理科室や音漏れから窓を閉めての授業が必要となる音楽室について整備を進めていることとお答えしました。

(金澤教育長) 質疑・意見はありませんか。

(鷲尾委員) 桑原委員の朝練習の位置づけについてですが、桑原委員はどのようなところから朝練習が子どもの負担になっているとお考えだったのでしょうか。例えば、特定の学校において一部の教員がマンネリズム化しているという個別の話からなのか。または、朝練習そのものが子どもの負担になっているのではないかというところからなど、その背景も含めた質問だったのでしょうか。

(中山学校教育課長) 朝練習をするためには、朝早く起きて、準備を整えて出かけるなければならない、子どもの体調や生活全体のリズムを考えると、朝練習について課題があるのではないかというものでした。また、指導する教員の働き方改革の観点からも朝練習が市内全体で行われているとしたら課題があるのではないかという主張でした。

(金澤教育長) そのほかに質疑・意見はありませんか。

(金澤教育長) 次に12月定例会で鷲尾委員から要望のあった「スクールフェニックスプラン」について、事務局から説明をお願いします。

(吉田教育施設課長) この計画は平成27年8月に策定されたもので、5年後の令和2年3月に改訂しました。また5年後、令和7年度に改訂する予定です。これは長岡市の学校施設長期保全の最低基準であり、国で言われる長寿命化計画です。学校施設を取り巻く状況においては、今後人口が減少して、少子高齢化が進み、子どもたちが2万2,000人程度となる見込みです。財政状況も税収の減少や高齢者医療・福祉の費用増加により、学校施設の整備・維持保全にかかる予算も効率的な執行が必要になります。児童生徒数の見通しは、昭和57年度の3万9,000人をピークに令和元年度で2万人となり、今後も減っていくのではないかと考えられます。学

校施設配置は、市の中心部、旧長岡地域に学校が集まっている状況です。学級数が半減していることもありますが、特別支援学級が増えていますので、実際には若干減というところでは、郊外の方は、1学年1学級が維持できない学校も発生しており、統廃合なども考えなければならない状況です。学校施設の老朽化状況について、長岡市の学校は木造から鉄筋コンクリートに移行する期間が、昭和50年代から平成初期に集中しています。築30年以上という校舎がだいたい151棟あり、1校3棟平均で50校くらいです。築20年から劣化が顕在化し、30年くらいになると安全面、機能面、環境面、省エネ面から影響が出てきます。将来的な課題についてですが、このままいくと、令和10年度以降に大規模な更新が集中してしまい、対応できないこと、これまでの事後保全では、建物の基本性能維持が困難になること、児童生徒数の減少により空き教室が増えていくことが考えられます。次に学校施設の整備方針ですが、1つ目は計画的な保全による長寿命化を図っていくことです。約25年ぐらいのサイクルで定期的な保全工事を実施することにより、建物を良好な状態で80年程度使用していきたいです。2番目に、教育環境のグレードアップです。50年経った時点で、建物の機能回復だけでなく、機能向上を図るリニューアル改修を推進します。3番目に教育活動に支障のない範囲で、施設の合理化を進めていきます。これは、統廃合やプール、給食調理の共同化などです。長寿命化による財政負担の平準化と軽減効果ですが、このまま進んだ場合、20年間で平均75億円の費用を要するところであり、計画的な老朽化対策を行った場合には、年45億～50億円程度の推移となります。工事の実績、定期点検をカルテ化し、学校の状況を見て事前に改修をかけ、学校施設を蘇らせる計画です。実際にこの計画に基づいた大規模改造工事は平成27年度から行っており、9校で実施しました。現在は、黒条小学校、岡南中学校で実施しています。事業費は、この期間で99億円です。年平均で16億6,000万円です。この計画の策定前に改修を必要とした才津小、東北中でも若干の工事を行っています。また、フェニックスプランでは、トイレの改修も工事に含まれており、事業費として13億2,000万円、年平均で2億5,000万円ほどかけています。トイレは洋式化を推進していることもあり、令和8年度終了予定です。小学校では78%、中学校は48%であり、全体で68.3%の進捗率となっています。

(金澤教育長) 質疑・意見はありませんか。

(鷲尾委員) 詳細な資料を拝見し理解できて、感謝します。一方、理解することにより、少しぞっとするというか、改めて国家百年の計というか、長期的にしっかりとロングレンジで考えてやっていかなければ、将来に禍根を残すということを改めて感じました。築40年の学校が、10年後多数出てきたときに、どのようなメンテナンスができるのか。また、少し論点がずれるかもしれませんが、先日、日吉小学校の保護者説明会にオブザーバーとして参加させていただきました。そこで、現状が変わることに対して不安に思う地域、保護者が圧倒的に多いなか、具体的に何か変えなければならないことに関しては、教育委員会が積極的に情報を開示する段階から提案するステージに移行しないと時間が足りないと思いました。先日、新潟日報で、燕市のある小学校で2019年から2021年までの2年間で10数回も保護者説明会を実施し、4年後の2024年にはもう統廃合するという記事がありました。やはり直近の統廃合を見ても、丁寧に進めるがゆえに、9年、10年単位と時間がかかっています。日吉小学校に行って思ったのは、本当に少人数で非常にきめ細かい良い授業をいただいていることに保護者が感謝しており、その通りですが、だからといってそれを放置していたらどうなるのでしょうか。改めてこのフェニックスプランで、分析は終わっているわけですので、その分析に対してどのようにアクションを起こしていくのか。正にPDCA、このアクションを教育委員会が考えるのか、それとも市長が考えるのかわかりませんが、ぜひ市長と教育委員の懇談会の席があれば、話をしたいと思っています。

(金澤教育長) 計画を作成し、いずれ見直しの時期が来ますが、色々な計画を10年スパン、5年スパンで作成したときに、10年では通用しなくなるため、PDCAの短いところでリニューアルしないと駄目なのだと思います。例えば、フェニックスプランでは、片やプランを進めながら突然、エアコンを全部入れる必要が生じたり、Wi-Fiの環境整備をしなければならない作業が入ったりなど、計画通りにいかないこともあります。世の中も日々変化していますので、その流れに遅れないように、短いところでPDCAを回しながらやっていかなければなりません。次の見直し、もしくは次の見直しを待たずして具体的な部分は見ていく必要があると思いますので、そういった視点を持っていきたいと思っています。

(荒木委員) 私も同感です。特に、人口減少、児童生徒数の減少は、20年後には30%、35%減っていると言われていた中で、学校数は維持できません。教育の内容・方法を含めて、求める教育の質が何ひとつ維持できないのは目に見えています。10年先は長すぎると思いますので、もっと短い単位で措置せざるを得ません。例えば、小学校で6学級あったとして、高学年に算数を専門とする人を入れるとなると、まず先生を集めなければなりません。特に小規模の学校では、それができない場合が多いです。さらに小学校の理科の授業ではこれが顕著で、専門の人に担当してもらいたくても、そもそも専門の人が小規模校にはいません。現実として教育の質を上げていくためには、教育委員会としてこういうふうにしていく必要があると提案すべきだと思います。私は統廃合を2つの学校で経験しており、いずれも統廃合が遅すぎると言われました。このような長い間、複式学級を設置しているのは子どもが可哀そうだと言われました。当時、その教育委員会が提案したところ、わずか2年後にはもう統廃合が実現しました。また、保護者会などに行くと、学校を維持することが正義だとみなされています。一方で、全く反対の声もあります。そのため、保護者会の声が真実の生の声かという、そうではない場合もあります。また、中山間地では、いざ教育委員会がそのように提案してくれると有難いと思っていることが多いということもあります。共通しているのは、保護者は子どもの教育環境が良くないということを前提に考えていることです。このような動きの中で、柏崎市、十日町市、上越市、新発田市が適正規模化している現状があり、阿賀町がやり始めており、その方法を強く望みます。

(金澤教育長) 学校規模の話題は、以前の会議にも出ていたところですが、別の機会に熟議したいと思います。その他にフェニックスプランについてはよろしいですか。

(金澤教育長) 次に、令和3年度文部科学大臣優秀教職員表彰について事務局から説明をお願いします。

(小畑学校教育課主幹兼管理指導主事) 令和3年度文部科学大臣優秀教職員表彰について報告します。受賞者は、表町小学校の福崎里美主査、新町小学校の津軽智子栄養教諭、大島中学校の岩澤正顕教諭、南中学校の岡本真梨教諭の4名です。表町小学校の福崎主査は、学校事務において、全県的な活躍をされています。同様に、

新町小学校の津軽栄養教諭も、自校の給食管理はもちろんのこと、全県的な役職を経ています。大島中学校の岩澤教諭は、中学校教諭で音楽指導に大変力を発揮され、全県的な活躍が認められます。南中学校の岡本教諭は、美術において子どもたちへの指導力が光って、非常に多くの生徒が入選を果たしています。今回の4名の内訳は、小学校が2人、中学校が2人です。また、教諭以外の学校事務職員、栄養教諭も選出していただきました。南中学校の岡本教諭は、若手教職員奨励賞という部門で、教職経験10年未満の方のカテゴリーになっていますので、御承知おきください。表彰に至る経緯ですが、今年度長岡市教育委員会から10名を県に推薦しました。受賞した4人以外にも、豊田小学校の種岡教諭、栖吉中学校の山岸教諭、中島小学校の河上教諭、東谷小学校の高橋教諭が県の表彰を受けています。この中から、文部科学大臣表彰ということで県に上がり、4名が被表彰者に選出されたものです。

(金澤教育長) 質疑・意見はありませんか。

(鷲尾委員) 若手教職員奨励賞は、教職員経験10年未満で顕著な成果を上げた場合において表彰されるもので、他県での勤務経験は含まれないようですが、本来、若手を奨励したいということであれば、被表彰者の年齢やこれまでの勤務期間は考慮すべきことではないかと思っておりますので、この表彰に違和感を感じてしまいます。

(小畑学校教育課主幹兼管理指導主事) 県の定める規定に従って上がった結果のため、今後の参考意見とさせていただきます。

(荒木委員) 事務職員、栄養教諭を評価の対象にさせていただくのは、大変意義のあることです。事務職員については、事務の共同実施等で、またその職種が主査から総括事務主幹までである中で、主査が選ばれたことに意味があります。栄養教諭についても、近年その役割が増している中で、きちんとそこに焦点を合わせていただくことは、意味のあることです。

(金澤教育長) ちなみに、令和3年度に新潟県から文部科学大臣表彰を受けたのは13人いるなかで、長岡市は4人が受賞したということでしょうか。

(小畑学校教育課主幹兼管理指導主事) そのとおりです。

(金澤教育長) そのほかに質疑・意見はありませんか。

(金澤教育長) 次に、キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰について事務局から説明をお願いします。

(大畑学校教育課副主幹兼指導主事) 令和3年度キャリア教育優良学校として、小国中学校の小国カンパニーが文部科学大臣表彰を受賞しました。小国カンパニーは今年で13年の活動を実施しており、地域に根付いて持続可能な継続的な活動が評価されたと考えています。1月25日、オンラインにて全国で表彰されました。

(金澤教育長) 質疑・意見はありませんか。

(金澤教育長) 次に、令和3年度「コミュニティ・スクールパイロット校」から見る成果と課題について事務局から説明をお願いします。

(中山学校教育課長) 社会総ぐるみで子どもを育てるため、学校と地域が目標やビジョンを共有し、一体となった学校運営を目指していくことが重要であることから、令和2年度に検討委員会を開き、今年度パイロット校6校を選出し、成果と課題を確認してきました。その中から見えた成果と課題を報告します。パイロット校では、協議会の設置、運営、それぞれの地域への広報発信等を中心に、実情に合わせた取組を試行錯誤してきましたので、その取組を担当指導主事から説明します。

(大畑学校教育課副主幹兼指導主事) それぞれの学校が地域の特色や学校の実情に合わせた取組を行っています。その成果としては、教職員や地域の方を交えて、どんな子どもを育てたいか話し合いの場を設けたり、地域の方と一緒に活動し、伝統芸能発表会をしたりと様々見られました。課題については、いずれにしても来年度以降のスタートにあたり、少しずつ改善できる内容で、克服が難しい課題は挙がっていないため、計画的に課題を克服しながら活動に移れるものにとらえています。資料は与板中学校区取組ですが、小学校の教職員、中学校の教職員、地域の方等を含めて50~60人がいろいろな部会に分かれ、子どもの実情の確認や今後の展開などについて数日間にわたり協議し、具体的な取組を考え、実際に取組を始めているような事例がありました。コミュニティ・スクール・ディレクターが作成した広報誌で活動内容が読み取れますので御確認ください。

(中山学校教育課長) 9月の末に令和4年度に向けた運営協議会、コミュニティ・スクール・ディレクターの状況についてを一覧表にもまとめています。報告させていただきましたパイロット校での成果、課題を基にし、各学校の教育活動に地域住民の力を注ぎ入れ、これまでも学校と地域が連携した特色ある活動を進めてきまし

たが、より一層内容を充実させて展開していけるように、令和4年度に向けた準備・検討を引き続き進めていきたいです。

(金澤教育長) 質疑・意見はありませんか。

(荒木委員) コミュニティ・スクール・ディレクターは必ず置かなければなりませんか。

(中山学校教育課長) 必置ではありません。

(荒木委員) ディレクターの存在が、コミュニティ・スクールをうまくまわしていくための重要なポジションになると思います。しかし、逆に言うと、いなくてもできるというならば、それでも良いと思います。それから、運営協議会を設置することによって、何か新しいものをやらなければならないという負担感を与えてはいけないと思います。課題に挙げられているように、「新しい取組を行うのではなく、これまで通り地域と密接な関りを持った特色ある取組を進めていく」、このニュアンスが大事です。また、地域とともに子どもを育てるという意識が大切であり、コミュニティ・スクールで意識づけをしている。この2本柱があって、学校、地域が随分良い方向に変わってくると思っていますので、この趣旨を積極的に校長に話し、肩ひじ張らずに進めてもらうような方向性を求めてもらいたいです。

(金澤教育長) 荒木委員のおっしゃるとおり、新しい取組を行うのではなく、この組織ができることで、教員が今まで自らコーディネートしなければならなかったところが負担軽減になり、敷居が高いと思っていた地域の人にとって学校の敷居が低くなり、学校と関わりやすくなるというメリットを前面に出しながらやっていくのが良いと思います。そう考えた時に、与板の取組が魅力的であり、特段目新しいことをしているわけではありませんが、それを計画的に、また地域の人を取り込みながらやっている様子が見えますので、良い取組だと思います。このコミュニティ・スクール通信はディレクターが作成したと聞いていますが、このように見える化して発信することが良いと思います。ちなみに、この作成した通信はどのような方々に配付されたのでしょうか。

(大畑学校教育課副主幹兼指導主事) 小中学校の保護者、運営協議会としての育てたい子どもたちの会議に参加してくださった方々に配付しています。

(金澤教育長) 地域回覧はしているのですか。

(大畑学校教育課副主幹兼指導主事) していません。

(鷲尾委員) 与板地区のディレクターである高橋氏はどのような方ですか。

(大畑学校教育課副主幹兼指導主事) コンピュータ関係の仕事をし、企業内でもこのようなコミュニケーション活動を社員向けに実施するなど、ノウハウをお持ちの方です。40代で与板出身です。

(鷲尾委員) コミュニティ・スクール通信も作成されているのですか。

(大畑学校教育課副主幹兼指導主事) そのとおりです。

(金澤教育長) ここまでできる方はなかなかいないと思います。

(金澤教育長) 他に質疑・意見はありませんか。

(金澤教育長) 次に、長岡市令和3年度子育て世帯等臨時特別支援事業(子育て世帯への臨時特別給付)実施要綱の制定について、事務局から説明をお願いします。

(田中子ども・子育て課長) 先ほどの議案第1号専決処理で説明させていただきましたが、高校生までの子どもがいる世帯へ、児童一人につき10万円を一括支給するための要綱を定めたものです。この要綱には対象者、対象児童、金額、振込方法等を記載しています。令和3年12月7日施行です。

(金澤教育長) 長岡市が定める要綱のため、報告としています。ほかに質疑・意見はありますか。

(金澤教育長) 質疑なしと認めます。

(金澤教育長) 続いて、附属機関等会議報告について事務局から説明をお願いします。

(佐藤中央図書館長) 12月6日に第2回の栃尾美術館協議会を行いました。会議内容は、令和3年度の事業報告と令和4年度事業計画です。このなかで、学校や保育園にどのように美術館の活動を周知しているのか、団体観覧はどのような流れで来ているのかという意見に対しては、年度初めに校長会等で年間スケジュールを案内したり、随時お知らせしていることをお伝えしました。もっと学校単位で美術館に来てもらったら良いのではないかという意見に対しては、学校でも様々な計画があるため、学校から自主的に来てもらっていることをお伝えしました。また、来年度の企画展について具体的にどのようなやり方をすると効果的に見ていただけるか、そして、集客につながるか意見交換を行いました。

(金澤教育長) 質疑・意見はありませんか。

(金澤教育長) 以上で、協議報告事項を終わりにします。

(金澤教育長) 次に、催し案内等について事務局から説明をお願いします。

(佐藤中央図書館長) 中央図書館から説明します。一つ目の文化講座については、松岡譲の生誕 130 年を記念して、夏目漱石山房記念館の学芸員からオンラインによる講演をいただくものです。次のふるさとのこどもたち展は、栃尾美術館で栃尾地域の保育園の子どもたちによる絵画や工作の展示を行うものです。また、栃尾文化センターが今年度で閉館しますが、これまでのおもしろいものを一堂に集めた展示会を行いますのでぜひおいでください。

(小熊科学博物館長) 長岡藩主牧野家ゆかりのおひなさま展は科学博物館の企画展示室で毎年恒例の展示会です。次のペンギン出張展示も毎年恒例で国営越後丘陵公園の依頼を受け実施しているものですが、2月6日はコロナ対策で丘陵公園サイドから中止の連絡がありました。20日については、実施するか否か検討中です。

(金澤教育長) 質疑・意見はありませんか。

(金澤教育長) 質疑・意見がないようですので、続いて新型コロナウイルスの感染状況について、事務局から説明をお願いします。

(青木学務課長) 小中学校においてもオミクロン株の影響により感染者が発生している状況です。今週に入り、概ね7、8人の感染者が日々出ています。1月27日現在の市立小中学校の1月中の感染者は62人です。1月25日付けで県の方から保健所のPCR検査の対象者を狭めるということで通知があり、26日の新潟日報朝刊にも掲載されていました。学校において今まで1人感染者が出るとクラス、同級生全員にPCR検査を念のため行っていましたが、今後はそのような対応ができなくなるということで、昨日学校に通知を出しました。このなかで陽性者が判明した場合は、学校と教育委員会で協議をしながら、クラスの中等に濃厚接触者がいないかどうか調査を行い、もしも濃厚接触者がいる場合には、陽性者との濃厚接触日の翌日から10日間の自宅待機をしていただく対応を行うことになりました。今までは、陽性か陰性かはっきりしていましたが、陰性の場合には濃厚接触者にあたらなければ登校できましたが、検査が行えないため、陰性か陽性かはっきりせず、濃厚

接触者に該当する場合は、10 日間の自宅待機をもって、人に感染する危険性がなくなるまで自宅待機をしてもらうことで、感染対策を行う対応としています。

(恩田保育課長) 保育園、子ども園、幼稚園についても同様に、12 月中旬頃からオミクロン株、第6波が始まっており、12 月中旬から昨日まで、園児・職員で累計で概ね 50 人の感染者が出ています。直近 1 週間で、20 人ぐらい出ており、拡大傾向が続いている状況です。休園した園については、12 月中旬の第 5 回以降 8 園となっています。濃厚接触者の考え方、その対応については学務課長が説明した通りで、保育園も同じ対応です。

(金澤教育長) 質疑・意見はありませんか。

(鷲尾委員) 濃厚接触者の定義を教えてください。

(青木学務課長) 概ね 4 点あります。まず 1 点目は感染者と同居、または長時間の接触があった者で、2 点目は 1 メートル程度の距離をマスクを着用せず、感染者と 15 分以上の接触があった者です。また、3 点目は適切な感染防御をせず、感染防御というのはマスクをせずにということであると思いますが、感染防御をせずに診察、看護、介護をした者で、4 点目は感染者の体液に直接触れた可能性が高い者です。これら 4 点が県から示されている判断基準です。学校においては、1 メートル程度離れているし、マスクをせずに過ごすことは給食の時間以外はほぼありませんので、可能性は低いと考えています。

(鷲尾委員) マスクをして生活していれば、濃厚接触者にならないという理解でよろしいですか。

(青木学務課長) マスクをしていれば濃厚接触者にならない可能性は高いですが、その状況により、換気がよくできていないことや自家用車の中で長時間一緒にいたなど適切な距離がとれていない場合もあります。マスクをして、適切な距離をとり、換気もよくできていれば、濃厚接触者になる可能性は低いと考えています。

(金澤教育長) 他にありませんか。

(廣川委員) 先日、新潟日報の一面に、新潟市の不安欠席の児童の特集が掲載されていましたが、長岡市で不安による欠席、自主的に登校を止めている児童生徒をカウントしていますか。

(中山学校教育課長) 昨日学校に確認したところ、小学校で9名、中学校で2名、合わせて11名が感染不安を理由に登校を見合わせています。

(廣川委員) それに対して学校からの働きかけはありますか。

(中山学校教育課長) 基本的には学校での教育活動が家庭の中でも継続できるように、タブレットの対応を含めて家庭の状況を聞きながら、ケースバイケースで対応しています。

(廣川委員) 学習支援以外の心理的負担に関するケアはどうなっていますか。

(中山学校教育課長) 学校職員が定期的に連絡を入れたり訪問したりすることのほか、子どもサポートコールや子ども・青少年相談センター等の相談機能も周知していますので、これらを通して対応しています。

(廣川委員) 保育園では、そういった不安による登園自粛はありますか。

(恩田保育課長) そこまで把握していませんが、お子さんの中にはいるかもしれませんし、控えたいと思う保護者もいるかもしれません。ただし、基本的に保育園自体は保護者の就労支援ですので、おそらく保育園ではないと思います。

(廣川委員) これまでですと、ノロウイルスなどが流行った時には、保護者の方に登園の自粛をお願いすることがあったと思いますが、今回はそのような対応はないのですか。

(恩田保育課長) 保育園、幼稚園で陽性者が出て、その濃厚接触者になった園児がおり、10日間家庭で待機しているときには、その兄弟は濃厚接触者ではありませんが、家庭で保育できるのであればお願いしているケースはあります。休園ではありませんが、可能であれば家庭で見てくださいというお願いは、状況により行っています。

(廣川委員) 各園の判断ですか。

(恩田保育課長) 市の考えということで説明しているので、一律でそのような形をとっています。

(金澤教育長) 他に質疑、意見はありませんか。

(金澤教育長) 以上で本日の定例会を閉会します。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員